

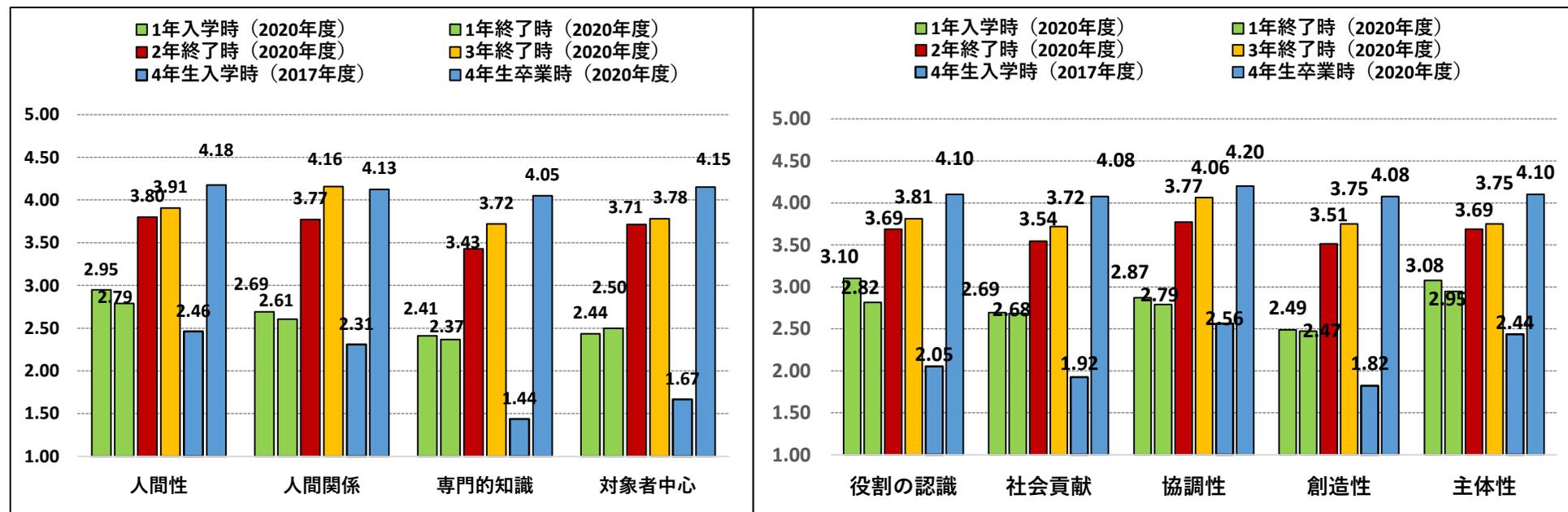
2020年度 学位授与の方針（学生が身に付けるべき資質・能力の目標）に照らした学修成果に関する検証

マイステップ・リエゾンポートフォリオ「学修成果の把握（学科／研究科専攻の学位授与の方針）」のデータを活用した検証です。

学科・研究科専攻名 リハビリテーション学科

作業療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 39名（97.5%）、終了時 38名（98.0%）、2年終了時 35名（100%）、3年終了時 32名（80%）、4年終了時 40名（90.9%）。
- ・学年推移による比較の概要および前年度との比較：1年生の入学時と終了時では全項目においてほとんど変化がみられなかった。この傾向は例年とは大きく異なる。その要因としては、1つは COVID-19 感染拡大による生活や学修環境が影響していた可能性が考えられる。もう1点は入学時の回答時期が例年とは異なり大幅に遅れたことが影響した可能性も考えられる。2年次以降は上位学年に上がるに従い、すべての項目で上昇していることから学位授与の方針は各学年の学内授業および臨床実習を経験する中で適切に反映されているものと判断した。
- ・4年生の入学時（2017年度）と卒業時（2020年度）の比較：入学時と卒業時の変化をみると、すべての項目において大きく伸びていることがうかがわれた（+1.64～+2.61ポイントの上昇）。特に4年間で専門的知識（+2.61）、対象者中心（+2.48）、創造性（+2.25）での成長が著しかった。



理学療法学専攻

- ・分析対象の内訳：1年入学時 45名（91.8%）、終了時 49名（100%）、2年終了時 13名（28.9%）、3年終了時 37名（84.1%）、4年終了時 33名（80.5%）。
- ・学年推移による比較の概要および前年度との比較：1年生においては、入学時と終了時では約1ポイント上昇しており、さらに上位学年に進むにつれて各項目において確実にステップアップしていることが確認された。2年生までは、中間点の3.5ポイントを下回る項目が多くみられるが、3年生以降では中間点を上回っていることから、学内授業で得た知識や技術が長期の総合実習を経験することによって学位授与の方針に掲げている能力や資質の向上につながっていることが推測される。
- ・4年生の入学時（2017年度）と卒業時（2020年度）の比較：入学時と卒業時の変化をみると、すべての項目において大きく伸びていることがうかがわれた（+1.32～+3.26ポイントの上昇）。特に4年間の学内外での学修機会により実践力（+3.26）、応用的知識（+2.76）、倫理的思考力（+2.56）、問題解決能力（+2.33）での成長が著しく、臨床で働く専門職として重要な知識と技術が培われたものと思われる。

